卒業論文

現代の若者と「まじめ」の構造
――社会へ適応する手段としての「まじめ」――

要約

本論文の目的は、若者が「まじめ」であることに対して抵抗感を持つ理由や、どのような特徴を持つ若者が、なぜそのような抵抗感を持つのか、その規定要因を明らかにすることである。

第 1 章では、本研究の対象となる若者がこれまでどのように捉えられてきたかを知るため、先行研究によって若者論の変遷について確認した上で、現在の若者がどのような特徴を持っているかについてまとめた。本研究においては、現在の若者の特徴として①友人関係が希薄化し多様化・選択化している。②内キャラ・外キャラを使い分け、自分らしさや個性を重視している。③社会から求められるものに適応し、数値化しやすい近代型努力から、対人能力などの数値化しにくいポスト近代型努力へ努力の方向が変化している。④生まれ持った素質によって人生は決まるため、頑張ることは格好が悪いという新しい宿命主義が誕生している。という 4 つを挙げている。

第 2 章では、若者と「まじめ」の関係性がどのように変遷してきたかをまとめ、高度経済成長期に崩壊した「まじめ」がバブルの崩壊後に再定義されつつあることを述べている。また、「まじめ」が再定義されている一方で「まじめ」に対する抵抗感が存在することを指摘した上で、若者が何のために「まじめ」であろうとするのかという「まじめ」の目標が何であるのかについて言及している。

第 3 章では、改めて本研究の目的について述べ、先行研究を基礎とした仮説を設定した上で、独立変数と従属変数について詳しい説明を加えている。独立変数については、若者の 4 つの特徴から、若者の友人関係の希薄化・多様化・選択化を測る友人関係フラット度スコア、どの程度個性的であることを重視するかを測る個性重視スコア、努力の方向性が近代型努力とポスト近代型努力のどちらに向かっているかを測るポスト近代型努力スコア、「生まれ持った素質によって人生が決まる」という新しい宿命主義がどれだけ浸透しているかを測る新宿命主義スコアを設定した。従属変数については、まじめに対する抵抗感がどの程度あるのかを測る「まじめ」に対する抵抗感スコアを設定している。また、第 5 節では調査対象者や調査手法など、調査の概要について述べている。今回の調査では九州大学の学生を対象とすることにした。

第 4 章では、分析・仮説の検証・考察を行っている。分析は単純集計の分析と仮説の検証のための重回帰分析、その他の分析の 3 つに分けて行なっている。第 2 節では分析方法

について述べた後、重回帰分析の結果、友人関係フラット度スコアとポスト近代型努力スコアが高いほどまじめに対する抵抗感が高くなる傾向があることを論じている。更に、その他の分析では、他人から承認されたいという承認欲求度が高いほど、「まじめ」に対する抵抗感は低い傾向がある一方、実際に承認されていると感じていない承認不服度が高いほどまじめに対する抵抗感が高い傾向があることが判明した。

第 5 章では、第 1 章から第 4 章までの知見をまとめ、本調査の反省点と、今後の課題を述べて本文を締めくくっている。

目次

はじめに 1
1　若者論にみる若者たちの姿 2
1.1　これまでの若者論 2
1.1.1　1970 年代の若者論 2
1.1.2　1980 年代の若者論 4
1.2　1990 年代以降の若者論にみる若者の特徴 4
1.2.1　若者と人間関係 4
1.2.2　若者とアイデンティティ 6
1.2.3　若者の努力の方向性 8
1.3　若者を取り巻く現代社会の姿 10
2　若者と「まじめ」の関係 11
2.1　若者と「まじめ」の変遷 11
2.1.1　1960 年代 11
2.1.2　1970 年代 11
2.1.3　1980 年代 12
2.1.4　1990 年代以降 12
2.2　「まじめ」に対する抵抗感 13
2.3　「まじめ」の目標 16
2.4　若者にとっての「まじめ」の目標 16
3　本研究の仮説と概要 18
3.1　本研究の目的 18
3.2　仮説 18
3.3　変数の設定 20
3.3.1　従属変数 20
3.3.2　独立変数 20
3.4　プレテスト 22
3.5　調査の概要 22
3.5.1　調査対象者 22
3.5.2　調査手法 22

3.5.3　調査時期 23
3.5.4　調査場所 23
3.5.5　回収サンプルの構成 23
4　分析と考察 24
4.1　単純集計の考察 24
4.1.1　「まじめ」に対する意識 24
4.1.2　友人関係に関する意識 27
4.1.3　個性に関する意識 28
4.1.4　努力の方向性 29
4.1.5　新しい宿命主義 30
4.1.6　その他の単純集計 31
4.2　分析結果 33
4.2.1　分析方法 33
4.2.2　仮説の検証 33
4.2.3　承認欲求 36
5　まとめと今後の展望 38
おわりに 41
参考文献 42